



No. 11
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成28年度第2回

さかいせんぼくこう すけまつ
堺泉北港助松地区

国際物流ターミナル整備事業

【再評価】

平成28年7月
近畿地方整備局

事業の概要

【整備目的】

- 西日本エリアにおける中古車輸出の需要増加、船舶大型化に対応することによる物流効率化
- 大規模地震発生時に幹線貨物輸送拠点としての物流機能を発揮し、社会経済活動を維持

【事業概要】

事業主体	事業区分	施設名	数量	事業期間	総事業費
国	直轄事業	岸壁 (-14m) (耐震)	300 m	H8 ~ H17	83億円
		航路 泊地 (-14m)	1,850千 m ³	H8 ~ H31	80億円
		小計		H8 ~ H31	163億円
港湾管理者	補助事業	道路	100 m	H8 ~ H10	※ 0億円
	起債事業	ふ頭用地	113千 m ²	H8 ~ H18	18億円
	小計		H8 ~ H18	19億円	
計				H8 ~ H31	182億円

※四捨五入により総事業費を0億円と記載

【位置図】



再評価の視点

再評価の視点	現在の状況	備考												
事業の必要性等に関する視点														
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	前回再評価時点(平成25年8月)から大きな変化なし	貿易統計等に基づく便益対象貨物量(平成27年値)は、前回再評価時点(平成24年値)から増加傾向にある												
2) 事業の整備効果	前回再評価時点(平成25年8月)から大きな変化なし	費用便益分析マニュアル等に変更がなく、B/Cの算定方法に変更がない												
3) 事業の投資効果	社会経済情勢等に大きな変化がないため算出を省略	<table border="0"> <tr> <td>前</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全</td> <td>体</td> <td>B/C</td> <td>1. 3</td> </tr> <tr> <td>残</td> <td>業</td> <td>B/C</td> <td>4. 4</td> </tr> </table>	前	回			全	体	B/C	1. 3	残	業	B/C	4. 4
前	回													
全	体	B/C	1. 3											
残	業	B/C	4. 4											
事業の進捗の見込みの視点	進捗率(事業費) 89%	平成27年度末までの投資額： 約161億円 (残事業費：約20億円)												
コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	前回再評価時点(平成25年8月)と変化なし													

事業の進捗の見込みの視点

- 岸壁(-14m) (耐震) や道路、ふ頭用地等は整備済である。
- 航路(-14m)の整備中であり、平成31年度完成に向け着実な事業進捗を図る。

事業主体	事業区分	施設名	数量	事業期間	総事業費	残事業費
国	直轄事業	岸壁(-14m)(耐震)	300m	H8 ~ H17	83億円	0億円
		航路 泊地(-14m)	1,850千m ³	H8 ~ H31	80億円	20億円
小計				H8 ~ H31	163億円	20億円
港湾管理者	補助事業	道路	100m	H8 ~ H10	※ 0億円	0億円
	起債事業	ふ頭用地	113千m ²	H8 ~ H18	18億円	0億円
小計				H8 ~ H18	19億円	0億円
計				H8 ~ H31	182億円	20億円

※四捨五入により総事業費を0億円と記載



■大阪府知事

平成28年7月19日付

近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(回答)

堺泉北港助松地区国際物流ターミナル整備事業は、堺泉北港において重要な事業であり、事業継続が妥当と考えます。なお、整備スケジュールについては、本府と引き続き協議を行い事業進捗に努められたい。

◆関係市町村の期待

■高石市

1. 期待する効果

- ・助松埠頭における中古車輸出台数は年々増加しており、平成26年には年間16万台を超え国内第3位となった。従前より国際拠点港湾としての位置づけから、同埠頭の水深は14mで整備して頂いたが、航路そのものが水深12mとアンバランスな状況であり、国の基幹産業である自動車産業のグローバル化の促進からも早急な整備を要望してきたところである。大津航路が増深されることにより自動車運搬船の大型化が進展し、中古車輸出台数が更に増加することを期待している。
- ・ターミナル利用による高石市・大阪府の企業立地促進、雇用創出、産業振興及び地域経済の活性化に寄与するだけでなく、道路ネットワークを利用した陸送や内航フェリー・内航ROROを利用して西日本各地より中古自動車を集荷していることから西日本の経済活性化にも寄与する事業である。
- ・切迫する大規模地震発生時において助松埠頭の耐震強化岸壁が機能することにより、高石市民をはじめ地域住民の安全・安心な生活が確保されると共に地域経済活動の継続が図られることを期待している。

2. 取り組み

- ・大阪府、堺市、泉大津市、高石市の1府3市で堺泉北港港湾振興連絡協議会を設立し、本協議会において堺泉北港の利用促進やポートセールス、企業誘致等を協働して推進している。
- ・インバウンド客増加によるクルーズ船の寄港も調査研究し、助松埠頭を観光、防災等多目的に活用してまいりたい。

さかいせんぼくこう すけまつ

堺泉北港助松区国際物流ターミナル整備事業は、事業の必要性等に関する視点に変更はなく、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を進捗し、早期の供用を目指すことが適切である。

事業継続

港 第 2700 号
平成 28 年 7 月 19 日

近畿地方整備局長 様

大阪府知事 松井 一郎



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る
意見照会について（回答）

貴職におかれましては、日頃から大阪府行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、平成28年7月4日付け国近整企画第73号により照会のありました標記依頼について、下記のとおり回答します。

記

堺泉北港助松地区国際物流ターミナル整備事業は、堺泉北港において重要な事業であり、事業継続が妥当と考えます。なお、整備スケジュールについては、本府と引続き協議を行い事業推進に努められたい。

【連絡先】大阪府港湾局 計画調整課事業グループ
TEL：0725-21-7357（直通）
FAX：0725-21-7284